

令和2年度 久留米市文化財収蔵資料審議会 会議録

開催要領

1. 開催日時：令和2年12月15日（火） 10時30分～12時00分
2. 会場：えーるピア久留米 206学習室
3. 出席委員：大津忠彦委員、吉留優子委員、吉田洋一委員、吉永陽三委員、
江藤彰彦委員、植野かおり委員、國生知子委員
4. 事務局：文化財保護課 水島課長、白木課長補佐、丸林課長補佐、
塚本主査、辻、原口
5. 傍聴者：なし

議事次第

1. 開会のことば
2. 課長挨拶
3. 報告
 - (1) 令和2年度以降の資料購入について
 - (2) 令和元・2年度の資料収集について
 - (3) 令和元・2年度の資料補修について
 - (4) 令和3年度以降の資料補修について
4. その他
 - (1) 資料の活用状況について
5. 閉会のことば

議事録

1. 開会のことば
2. 課長挨拶
 - 水島課長より挨拶
3. 報告

(1) 令和2年度以降の資料購入について

○事務局より説明

○質疑

(委員) 今年度の資料購入予定がないのは、予算の問題か、それともしかるべき資料がないのか。

(事務局) 予算は確保できているが、今のところ緊急性を要する資料がない。

(委員) どこも予算は削られていくので、購入費の確保は継続してほしい。

(委員) 限られた予算だと、例えば小野川才助の化粧まわしのようなものを購入するとなれば、単年度では厳しいのではないか。

(事務局) 金額の大きなものが市場に出た場合、財政などと協議しながら予算の確保に努めたい。

(2) 平成30年度・令和元年度の資料収集について

(3) 平成30年度・令和元年度の資料補修について

(4) 令和2年度以降の資料補修について

○事務局より説明

○質疑

(委員) 小野川才助は「○代目」といった具合に何代かいる。今回の化粧まわしの小野川才助は、谷風と同時代の力士ではなく、幕末の力士であるので、解説等の際には留意すること。また、紫袱紗は蛍光灯の具合もあるが退色しやすいので、注意すること。意見として申し上げる。

(委員) 具足の修復に関わっている、大西漆芸修復スタジオはどこにある業者か。

(事務局) 筑紫野市にある業者。

(委員) 資料7ページの「刻苧」の読みは？

(事務局) 読みは「コクソ」。

(委員) 資料2ページの「矢野十三雄家資料」の矢野家は、久留米藩士の矢野一貞と関係があるのか。また矢野家について詳しく分かるか。

(事務局) 矢野家は詳しくは分からないが、十三雄は芸術分野の人で、一貞の家系とは異なるようだ。

4. その他

(1) 資料の活用状況について

○事務局より説明

○質疑

(委員) 資料 12 ページの資料貸出で、特に出前講座などで民具の貸出の実績はあるか。

(事務局) 農具等は難しいが、石臼などは出前講座の体験メニューにあり、学校などへの貸出実績もある。

(委員) 石臼の目立ては行っているか。

(事務局) 八女市の石材店にお願いして、数年おきに目立てをしている。

(委員) 教育普及の観点から、民具などは実際に体験に耐えうる資料を確保するのが望ましい。特にむかしのくらし展のようなものは、市から学校へ情報発信するなどの姿勢も必要ではないか。

(事務局) 今年度はコロナ禍で実施していないが、例年、市立小学校 46 校のうち、40 校程度の小学 3 年生に六ツ門図書館展示コーナーに来館いただき、体験を実施している。

(委員) 有馬氏入城 400 年に絡んで、資料の収集方針に「久留米藩の歴史的関連地域に関わる資料」とあるが、例えば田中家や立花家に関する資料の収集にも散逸しないよう注意を払って欲しい。

(事務局) 収集方針には、現在の行政区域を越える範囲も対象とし、小早川や田中の時代も対象としている。

(委員) コロナ禍で、本来は疫病退散を起源とする無形文化財の行事が中止になる事例も多い。行事・神事は貴重な文化財であり、行事がイベント化していく状況も危惧している。

5. 閉会のことば

○水島課長より、閉会のあいさつ

* 審議会終了後、文化財収蔵館にて収蔵資料の見学。